

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	一般社団法人日本教育演劇道場
公演団体名	劇団らくりん座

内容
<p>○前半は全体でシアターゲーム、後半は配役毎に分かれて共演場面の練習</p> <p><前半：オリエンテーション（全員）> ミラーゲーム→劇団員の動きを真似して指・足・顔などそれぞれリズムよく丁寧に動かす 空間を歩く→与えられたお題の状況を想像して歩く 数字や絵画を作ろう→数人のグループで身体を使って一つの数字や絵を作る</p> <p><後半：共演場面の練習> ・動物（オオカミ、ヤギ）→台詞や動きの練習。コーラス→歌を表情豊かに歌う練習</p>

タイムスケジュール（標準）
2 時限分 前半は全体でシアターゲーム、後半は配役毎に分かれて共演場面の練習

派遣者数
主指導者 1 名 補助者 5 名

学校における事前指導
劇中歌のCD・楽譜事前に送付 共演場面の台本送付（希望校のみ）

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	一般社団法人日本教育演劇道場
公演団体名	劇団らくりん座

演目

「あらしのよるに」
原作／きむらゆういち
脚本／かめおかゆみこ
演出／印南貞人（東京芸術座）
作曲／上野哲生（ロバの音楽座）

公演時間
100分 休憩含む

派遣者数

出演者6名
スタッフ4名

タイムスケジュール（標準）

到着8時、仕込み8時～11時30分
共演場面リハーサル11時30分～12時10分（学校の時間割4時限めに合わせます）
本公演13時20分～15時00分
撤去15時00分～18時、退出18時

実施校への協力依頼人員

途中休憩時の換気 数名（窓の数による）

演目解説

ある嵐の夜、真っ暗な山小屋の中へ避難してきたヤギとオオカミ。2匹は相手が誰だか分からないまま、意気投合する。そして「あらしのよるに」を合い言葉に翌日再び会う約束をする。翌日、2匹は互いの正体を知ることになるが、「食べる」側と「食べられる」側という関係を超えて「ひみつのともだち」となる。しかしやがて、2匹の関係はお互いの仲間に知られてしまい、それぞれ相手の情報を探ってくるように命じられる。ヤギのメイとオオカミのガブは、集団内での立場よりも、お互いの友情を大切にして2匹で逃げることを決意。ヤギとオオカミと一緒に暮らすことができる「緑の森」を目指して。

吹雪の中を行く2匹。空腹と寒さに体力を削られ、もう歩けないと感じたメイは「私の分まで生きて」とガブに自分を食べるように懇願する。そのとき既にオオカミの群れは間近に迫っていた。ガブはメイを食べることができず、オオカミたちと闘ったが雪崩にのまれてしまった。雪がやみ、目覚めたメイのそばにガブはいなかった。

ある日、ガブが近づいてくるのを見て、喜んで近づいていくメイ。しかしガブは雪崩のショックで記憶を失っていた。ガブの豹変ぶりを嘆き悲しんだメイは、「あのあらしのよるに出会わなければよかった」と叫ぶ。その言葉でガブの記憶は戻り、2匹は再び友情で結ばれたのであった。

【見どころ及びセールスポイント】

アニメ映画など様々に作品化されて高い評価を受けている物語そのものの素晴らしさに加え、当劇団では、回り舞台を駆使し草原、山の頂上、雪山へと表現する。こうした想像が膨らむ舞台美術に壮大な大地のメロディーに乗せて小さな生き物が歌う力強い歌、様々な機材を使用して舞台を物語の世界へ一変させる照明など、まさに総合芸術と呼ぶにふさわしい舞台を構成している。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

森の動物たち10名前後、オオカミ達17名位、森のコーラス20名以上（森の動物たちも参加は可）として参加します。

○ オオカミチーム

1幕ガブの回想シーン（オオカミ達の権力争いを見守る仲間のオオカミとして登場）と2幕始まりの遠吠えに参加

○ 森の動物達

2幕冒頭「どしゃぶりの日に」オオカミから逃げ惑う動物達として登場し、ヤギの裁判に参加（その後、森のコーラスに加わる）

○ 森のコーラス隊

オオカミとヤギの「ひみつの友達」が仲間にばれ、お互いの種族の秘密を探りに行くシーンの道行で劇中歌「未来を想う歌」を歌います。

児童生徒とのふれあい

希望校には公演終了後にバックヤードツアー、写真撮影などの対応可